

水草関連文献のデータベース化 (中間報告)

角野 康郎

本誌上で日本の水草に関する文献リストを逐次掲載しているが、会報発刊当時に連載した「水草関係文献目録」(1975年までの文献を収録)を含めるとかなり多数の文献をリストしたことになる。

しかし、このような文献リストは、まとまったものとして存在し、必要に応じて活用できるものであることが望ましい。そのためにはデータベース化を行なう必要がある。そのような声はかなり以前からあり、千葉大学の土谷岳令氏の組まれたデータベース用のプログラムを送っていただいていたが、英文論文にしか対応できなかったことなどから活用されないままになっていた(申し訳ありません)。しかし、文献はふえていく一方なので、なんとかデータベース化に取りかかりたいと考え、昨年来、今までにリストした文献の全てと当会報の記事を加えてパソコンに入力する作業を進めてきた(ちなみに最近の文献リストはパソコンを使っていますので自動的に追加されます)。最近パソコンの機種間の互換性も高まり、またソフト間でデータを移し変えることも容易になってきたので、とりあえずマッキントッシュのエクセルを使っ

て入力作業を行なった。今までに2300あまりの文献が入力済みである。現状でも著者別あるいは年代別の並べ替えや、ある程度の検索作業は可能であるが(次ページ参照)、今後、キーワードの入力や他の機能をもつデータベースソフトにデータを移すことで、さまざまな活用の道が広げられるだろう。

今後、どのようにすればこのデータが有効に活用できるのか、その方法をさぐる必要がある。アメリカのAquatic Plant Information Centerが行なっているような情報サービスができれば理想的であるが、そんな時間的余裕は今の事務局にはない。ある時点で区切って印刷物にする、最新のフロッピーをコピーして提供する、パソコン通信でアクセスできるようにする、などさまざまな利用方法が考えられるが、いずれにしてもパソコンの知識の乏しい私にはたいしたことができそうにないので、ぜひ皆様のお知恵を拝借しながら、このデータベースを共通の財産として充実させていきたいと思う。

最後に、データの入力作業を行なっていただいた元神戸大学職員立花有紀さんに御礼申し上げる。

○芝山秀次郎・森田弘彦共著『雑草の博物誌—水田雑草編一』(武田薬品工業(株)発行, 1994年1月, 96p., 非売品)

代表的な水田雑草の、まさに博物誌である。ウリカワ、コナギ、ヒルムシロ、オモダカなど代表的なもの約30種が登場し、それぞれの種の生活史や繁殖特性などについての具体的な記述がある。これは「雑草研究」誌などに発表された研究成果に基づくもので、その種の生態についての優れた解説である。さらにその種の方言名や古名について、古典から現在の文献まで広く引用して、幅広く紹介と考証がなされている。この部分が、他に類例のない本書の特色である。方言名は、全国の農業改良普及所に問い合わせたもので、地方の普及所からの

回答が一覧表になってついているのもおもしろい。

本書は、新しい農薬の発売を記念して作成されたものということで非売品となっているが、内容はじつに充実したものであり、ぜひ一般の書店でも入手できる形で販売して欲しいものである。

(角野 康郎)